

「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」に入会しませんか？

“過去を胸に刻み、これからの教訓とする”

会では、この中帰連の精神を受け継ぎ、反戦平和と日中友好に取り組みんでいます。全国の支部では、会員が聞き取りや証言集会や映画上映会の開催、読書会や勉強会などを積極的にこなしています。また中帰連に関する資料・文献の収集・保存・整理・公開などに取り組み、季刊「中帰連」や会報「前へ前へ」を発行しています。



会の目的

- 1 中国帰還者連絡会が、中国の撫順と太原の地において育んだ精神を受け継ぎ、反戦平和と日中友好のための諸活動を通じて、世界平和に貢献する。
- 2 「過去のことを忘れることなく、未来に生かす（前事不忘 後事之師）」の精神に基づき、史実に基づく歴史認識を確立する。
- 3 自らの加害行為の証言活動などを行ってきた中帰連の歴史を語り伝え、その証言と記録を保存・整理・公開して後世に伝え、社会の共同認識とする。

◆連絡先 〒350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6 NPO 中帰連平和記念館内

撫順の奇蹟を受け継ぐ会事務局

Tel : 049-236-4858 (本部事務局) Fax も同じ

E-mail : tyuukiren@yahoo.co.jp

◆年会費：3000 円 郵便振替口座 00120-3-27498 (口座名：「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」)

＊メールマガジンのリストにもご参加ください。

◎季刊「中帰連」ご購入のお願い
戦争とは何か。人間とは何か。あなたも歴史の証言と記録を、手にしてみませんか。

- 定期購読＝3000 円(4 号分・送料込み)
- 維持会員＝1 万円(関連書籍割引など特典あり)

ご購入の申し込みは「中帰連」発行所まで、下記、メールか FAX で。
お名前、送り先の郵便番号と住所・電話番号を記載のうえ、定期購読が維持会員かをお知らせください。

Fax : 020-4624-2381

E-mail : tyuukiren@yahoo.co.jp

インターネットからも申し込みできます。

<http://www.tyuukiren.org>

◎NPO 中帰連平和記念館

戦争と平和の問題を考えるための
図書・資料館です。どうぞご利用ください。

◎ 開館日：水・土・日

◎ 時 間：10:30～16:30

(12月～1月は16:00まで)

〒350-1175 埼玉県川越市笠幡1948-6

Tel/Fax : 049-236-4711

《上記、開館日・開館時間外は》

Tel : 049-231-9706

友の会

■会員＝年会費：5000 円

■維持会員＝年会費：1 万円

「中帰連」って何だろう？ それに、「撫順の奇蹟」って何？



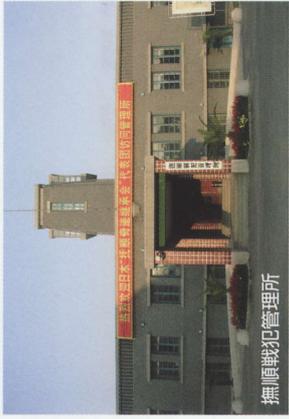
撫順の奇蹟を受け継ぐ会

<http://www.tyuukiren.org/>

今から60年前、中国の戦犯管理所で起きたこと。

人は心から生まれ変わることができる。

そして、人と人とお互いを理解しあうことは、必ずできるのです。



撫順戦犯管理所

「撫順(フジュン)の奇蹟」について

◎戦犯として、管理所での日々。

1945(S20)年、日本の敗戦後、中国東北北部(旧満洲)や樺太、北朝鮮にいた日本人のうち約60万人がソ連領内に連行され強制労働を強いられました。極寒と栄養不良、過労、疫病などで約6万人が死亡したといわれています。

そして1950(S25)年、在ソの生存者のうち969名が建国間もない新中国に引き渡され、遼寧省の撫順戦犯管理所に「戦犯」として収監されました。また別に、戦後中国山西省に残り閻錫山軍に参加、その後4年間中国共産党軍との戦いを続けた日本人もいました。彼らは太原陥落とともに解放軍に捕えられ、そのうち140名が山西省の太原戦犯管理所に収監されました。

管理所での生活は、破格の待遇といえるものでした。三度の食事は保証され、労働はいっさい強いられることなく、病人には高価な薬まで用意され手厚い看護がなされたのです。

しかも中国人の職員たちは、戦犯を手荒に扱ったりすることはなく、どんな時でもおだやかで、終始温かい態度で接してくれました。



思い返せば、戦犯とされた彼らは、戦争とはいへ中国各地で数々の非道を重ねてきたのです。行き過ぎた行為が中国人から深い恨みを買っていたのですが、それを自覚している戦犯はほとんどいませんでした。

それでも、かつての敵に捕獲された以上は過酷な仕打ちを覚悟して、当初はおびえたり、自棄になり反抗したりしていました。

ところが予想に反した中国側の人道的な処遇と、あり余る時間の中で、いつしか戦犯たちの心に変化が現われてきます。

かつて自分たちが酷いことをしたその中国人から、今こうして優遇されている。その現実をどう理解すべきか、真剣に考え出したのです。

こうして日本人戦犯たちは、自分のことや日本のごと、戦争や歴史の真実について学習するようになっていきました。

戦犯たちは、かつて自分が行なってきたことを徹底的に掘り下げ、心から反省して中国の人に謝罪するに至ります。そのことにより、人間としての「良心」を取り戻すことができたのです。

それは管理所という媒体を通して、加害者である戦犯の心と、被害者である中国人の心が、ひとつに結ばれ理解しあうことができた瞬間でした。その感動はすべての人に訪れます。

まさに「奇蹟」と呼ぶにふさわしい出来事でした。

◎帰国後の戦犯たちの後半生。

収監から6年後の1956(S31)年、ほとんどの戦犯が認罪の態度が良好と見られ帰国を許されます。一部は軍事裁判で刑が確定しますが一人の死刑もありませんでした。

帰国した約1000人は「中国帰還者連絡会」(略称:「中帰連」)を結成します。

以来、メンバーは「反戦平和」と「日中友好」を機会あるごとに訴えてきました。

自分が殺害した中国人や、戦争の惨禍を味わった人々の悲痛な叫びを胸に、加害者としての反省から、戦争の語り部となり戦争犯罪の生き証人となって活動してきました。さらに、中国による人道に徹した処遇で生まれ変わったことができた体験を広く伝えてきたのです。



向抗日殉難烈士謝罪碑

1988(S63)年、中帰連は撫順戦犯管理所の庭に「向抗日殉難烈士謝罪碑」を建立、謝罪の意を新たにしました。



撫順戦犯管理所の扉に咲く朝顔

◎「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」

2002(H14)年になり、会員の高齢化のため中帰連は解散しますが、その精神と事業は次世代に継承されることになりました。それが「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」です。

世界の各地では、いまでも国家間や民族間の武力衝突や紛争が絶えることはありません。

かつて撫順と太原で起きた出来事は、これらの「憎しみの連鎖」を断ち切ることへの可能性を示していると思われまます。

この貴重な「奇蹟」を踏まえ、私たち「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」は、忘れてはいけない歴史のひとコマを後世に伝えていくために活動していきます。真の平和は過去の真実を知り、伝えていくことで道が開けるのだと、私たちは確信しています。

私たちは、その証言の記録と想いを多くの人びとに広め、後世に語り伝えていきます。